

令和3年度学校自己評価システムシート (県立新座高等学校)

目指す学校像	みんなの心が共に響きあう学校
--------	----------------

重点目標	人として信頼され、志を持った生徒を育成する 1 確かな学力を身につける学習システムの下、すべての生徒が学ぶ喜びを実感する《学力の向上》 2 一人一人の生徒に徹底的に寄り添い指導し、多様な生徒の進路希望を実現する 《自己実現の醸成》 3 地域社会と連携し、チームとしての学校力の向上を果たす 《開かれた学校づくり》
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				
年 度 目 標				年度評価 (1 月 1 1 日 現 在)
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	(現状) コロナ禍によりグループ学習が制限される中、ICTを活用した学びが進み、個に対応した多様な形態の指導を実践している。 (課題) 学習指導・生徒指導が一体となり、基本的生活習慣や授業規律の確立、また、基礎学力の定着や学力の向上が求められている。	○生徒の基礎学力の定着、さらに学力の向上をはかる取組を進める。 ○基本的生活習慣や授業規律の確立をめざし、落ち着いた学習環境づくりを行う。	①本校生徒に即した教授法や新教育課程に合わせた授業づくりの検討を進める。 ②漢字検定や数学コンテストなどを通して、学習習慣の定着を進める。 ③丁寧な生徒観察を通して、きめ細かい指導を実施する。 ④面談や各種アンケートを活用して、生徒の状況を把握し対応を行っていく。	①授業研究プロジェクト委員会や授業研究会の活動状況 ②各学期末の成績優良者・不振者数の推移 ③遅刻・欠席数の推移や挨拶の励行等の状況 ④アンケート等の調査結果やその対応状況
2	(現状) 生徒指導、生徒会指導、進路指導等がていねいかつ確実に実施され、教職員と生徒との信頼関係が良好である。また、県教委事業にもとづく外部人材も有効に活用されている。 (課題) 教職員と外部人材が一体となった教育活動が実践される中、より有機的な取組がなされ生徒の人的成長がさらに求められている。	○生徒に自身の希望や適性についてよく考えさせ、外部人材等も活用し、一人一人の進路希望実現をはかる。 ○生徒会活動をはじめ、生徒の様々な活動を通して生徒の主体性の伸長や社会性の養成をすすめる。	①各種ガイダンスや面談等、自身を振り返る機会の設定 ②学習サポーター等の積極的な支援 ③部活動や生徒会活動および学校行事等を通じた体験活動の推進 ④高校生自立支援事業を活用し、生活スキルのアップを図る。	①ガイダンス等の実施回数および生徒の取組状況 ②学習サポーターや支援員等の活動状況 ③部活動加入状況や各種体験活動の内容と取組状況 ④自立支援事業の活動状況
3	(現状) PTA・後援会との連携、学校説明会の実施や近隣中・高への授業見学会の設定、また、HP更新による情報発信など、開かれた学校づくりを推進している。 (課題) これまでの取組を継続するとともに、地域をはじめ県内中学校等との交流をはかり、本校への理解をさらに進める必要がある。	○地域や小・中学校との連携、PTA・後援会との協力を積極的にすすめた学校づくりを行う。 ○HP更新、説明会の実施や中学校訪問など、様々な取組をとおして、本校の理解度を高める。	①各種行事や部活動等において、校外機関と連携した活動を行う。 ②HPの更新をはじめとして、外部への発信を積極的に行う。	①校外機関と連携した取組の活動状況。講演会等の外部人材の活用状況 ②HP更新や学校説明会等の実施状況

達成	次年度への課題と改善策
B	○成績優良者数は大幅に増加したが、不振者数が横ばい傾向である。今後は、生徒個々の実態把握による教育指導が必要となる。 ○挨拶の励行が進められていることから、今後は自発的に行動できるような生徒指導が必要となる。 ○学校満足度は概ね良好であり、今後は学校としての特色化を図り、より満足度の高い学校作りを推進していく必要がある。
A	○学習サポーターや自立支援事業等における外部人材の活用について進められている現状を踏まえ、今後はより一層の教員と外部人材との連携を深める必要がある。 ○体験活動について、社会状況の影響で体育祭や文化祭の実施形態の変更を余儀なくされたが、来年度に向けてより効率的にまた、生徒に効果的な学校行事となるように工夫改善が求められる。
A	○外部機関との連携について、活動が制限されることが多々あったので、今後は連携事業を深め地域に根差した活動による開かれた学校を推進していく必要がある。 ○ホームページやメール配信を利用した外部への情報発信について、より一層推進する必要がある。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和4年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等
○挨拶の励行は非常に重要である。家庭内での挨拶がない現状があるので、家庭内でも挨拶をさせるように保護者に働きかけてほしい。 ○遅刻数の多さは気になるが、生徒の多くは学校生活を積極的に参加し、主体性をもって取り組んでおり、充実感を持っている。 ○グループ学習等で生徒たちが学びの中で、考える力や仲間と協働していく力を身に付けている。その結果として、学校に対する満足度が高く、保護者からの信頼も得ている。 ○成績優良者の数が増えているのは一つの成果であり、学習に対する一定の成果はグループ学習やICTを使用したことが一端となっている。
○個別学習も大切であるが、少人数制を取り入れたグループ学習から実施した方が、生徒の孤立感がなくなり、より楽しく学習に取り組むことができる。教師・サポーター・生徒との信頼関係が厚ければ厚いほど学力向上の定着にも大きく影響することを期待する。 ○先生方が形式的な業務に時間を取られず、大事である授業力、生徒との信頼関係を築くために共に生徒といる時間が大事。授業や生徒とのかかわりに専念できる環境づくりが今後も必要である。
○今後も継続して開かれた学校づくりの取組をしていただきたい。生徒募集においても、学校情報誌や定期的なホームページの更新など、引き続き情報発信を積極的に行って、より多くの生徒確保に邁進してほしい。